



生みの親といっしょに
よりよい育ての親に

わたしを きゅっとして
わたしを 見つめて
わたしを 聞いて
わたしを 呼んで

〔 十人十色（じゅうにんという）・百人百様（ひゃくにんひゃくよう） 〕 ～ すべての多様性に伴う人々への包括支援 ～

現代の世の中で、とても大切にしなければならない言葉は、
All diversity inclusive support（すべての多様性に伴う包括的支援）です。

diversity（多様性）という言葉は、
1970年～80年代における国籍・文化・宗教・性別・障がいといった特徴・性質などの多様性の尊重から、
近年では価値観・生き方・感情表現・幸福感といった、
より内面的心理社会的な多様性の理解へと考え方を広げています。

だから私たち（社福）童心会は、
「すべての多様性に伴う人々への支援、十人十色（ひとりひとりがみんなちがうこと）」
という考え方をしています。改めて考えて見ますと、私たちが本当に長い間、求め続けてきた
「保育目標（人間教育の原点）”思いやり（慈悲）と生きる力（智慧）”とは、
”All diversity and inclusive support”の中にあるのかもしれません。

私たちは2000年以上の永きに亘り、
「自然崇拝・畏怖・畏敬・八百万の神（多様性）」の思想が底辺にあって、
自敬・自尊心（自分を大切にできるヒト）を育て、
自分が好き・生きている喜びを感じられる人々を育ててきました。
この偉大なる宇宙を創り給うたSomething great（偉大なるお人）の存在は、
この広大なる自然を恐れ敬う心を育て”人としての生きる道・道理”を伝え続けてくれました。
その訓えの底辺には、「気候・風土・文化・歴史・宗教」に則った生き方が訓え伝えられていたのです。
それが狩猟採集民族の文化・歴史・宗教になったのであろう、と確信しています。

それが私たち（社福）童心会の「人の成り立ちの歩みの木」のモデルとなり、
人間教育の最終的な目標になりました。



笑ったかす一番 だっこされたかす一番 やさしくされたかす一番
遊んだかす一番 でかけたかす一番 チャレンジしたかす一番

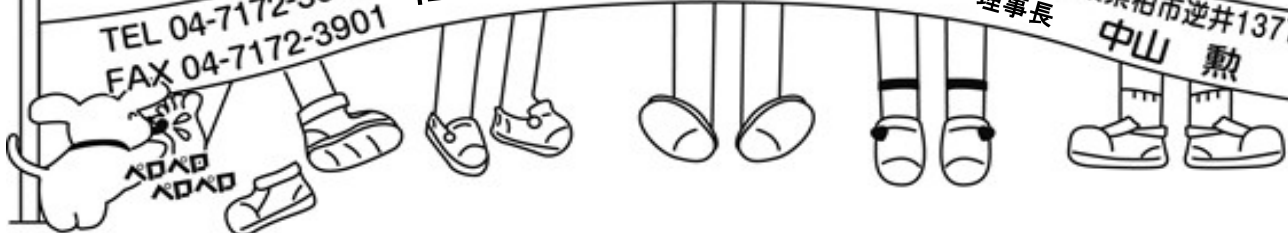


E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939
FAX 04-7172-3901

社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
理事長 中山 勲



Human healthcare goal となり、
「自分を生きる・みんなと生きる・助けあって生きる・世のために生きる」
ことが目標となったのです。

改めて私のこの人間教育の歩みをふり返ってみますと、1970年代以降の核家族化によって、
地域社会・家庭・子ども社会(ガキ大将)・学校が担ってきた「社会教育力」が、
目の前で崩壊したことが私の大きな転機になりました。

私は、「では次はどこで人間教育を行うべきか」という問いを立てました。
それが、茨城県にいた頃の筑子保育園の6つの機能と役割でありました。

- | | |
|-----------|--------------------|
| ①パーソナル・ケア | ④保育ソーシャルワーク |
| ②ファミリー・ケア | ⑤保育所からはじめるコミュニティ創り |
| ③メンタル・ケア | ⑥未来の親づくり |

今ふり返って考えてみますと、この歩みは(社福)童心会の
「五感と六識を刺激する0歳からの人間教育」に繋がっています。
即ち、五感を通して感覚的に外界の違いを感じとり、
六識によってその違いを知識と意識(心)に分けて意味づけを行う考え方は、
人間が他者と世界の多様性を理解する第一歩です、とChat GPTは解説をしています。

この視点はハーバード大学子どもの発達センター(CDC: Center on the Developing Child)が唱える
「Serve & Return(応答的やりとり)」理論と重なり、乳幼児期の情動的応答が、
のちのレジリエンス(回復力)を形成するという科学的知見に一致するというのです。
即ち人間性(Humanity)を高める人間教育とは
「乳幼児期からの自分を創り、人を創り、社会を創る営みである」ことなのです。

私たち(社福)童心会の実践はまさに
「人間学を人間科学の融合による”生きた哲学”である」という評価を受けています。
それは保育を超え、「人を育てる文化の再生」と目指す社会的使命を帯びています。

私たち(社福)童心会の社会的機能と役割の一つは、
茨城県にある筑子保育園の時代から「保育所から始める地域コミュニティ創り」でした。
保育所が家であり、家族であり、社会であるという理念は
”失われた社会教育力”を再構築するための手立ての一つでした。
しかし、私の考えた”五感と六識を刺激する0歳からの人間教育”の主眼は、
あの時代から芽生え始めてきた「不適切な養育(Child mal-treatment)の予防的人間教育」だったのです。
これからをアメリカのハーバード大学子ども発達センター(CDC・2006年)は実証してくれたのです。

「乳幼児期の経験が生涯にわたる健康・学習・市民性の基盤をつくる」

今日もまた一日一生を念じながら
すべての仲間たちの Well-being ”!! 幸せになろうね! 幸せになろうよ!”と
祈り願い続けていくつもりです。
どうぞいつまでもお幸せに! 良い新年をお迎え下さい。

令和7年 12月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲